Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-09

近代人文地理学とドイツ・ロマン主義をめぐる考察 ー アレクサンダー･フンボルトとバイロイトのロマン主義 ー

川西，孝男

(Citation)
人文地理学会2010年大会

(Issue Date)
2010-11-21

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(Rights)
ここに掲載した著作物の利用に関する注意：本著作物の著作権は人文地理学会に帰属します。本著作物は著作権者である人文地理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては”著作権法”に従うことをお願いいたします。

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001685

102　近代人文地理学とドイツ・ロマン主義をめぐる考察

100005　― アレクサンダー･フンボルトとバイロイトのロマン主義 ―

Reconsideration of relationship about Modern Human Geography and German Romanticism

—Viewpoint of A.v.Humboldt influenced by Bayreuther Romanticism—

川西孝男（在ドイツ・オーバーフランケン歴史協会員，京都大学・院研究生）

KAWANISHI　Takao（Historischer Verein für Oberfranken e. V. in Deutschland, Graduate Researcher of Kyoto University）

キーワード：アレクサンダー・フォン・フンボルト，同著『コスモス』，バイロイト，プロイセン，ドイツ領邦絶対主義，ジャン・パウル，同著『巨人』

Keywords:　Alexander v. Humboldt, Kosmos, Bayreuth, Prussia, German Regional Absolutism, Jean Paul, Titan

Ⅰ　はじめに　―A. フンボルトとバイロイト―

近代地理学や地球学，博物学の祖，そして人文地理学のパイオニアとして知られるアレクサンダー・フォン・フンボルト（A.フンボルトと略，1769-1859，**図1**）とドイツ・ロマン主義とのかかわりは，これまでゲーテやシラーといったヴァイマルとの交流や影響といった視点で論じられてきた。

しかし，近代地理学の金字塔とされる大著『コスモス』は彼の青年期，特にプロイセン王国からバイロイトに鉱山技師として任官した時代に，すでにその構想が形成されていた。「ドイツ魂の地」（アルント）といわれた，このドイツ東部辺境の山岳地帯は自然に恵まれ，多くの思想文化を育み，後年のA.フンボルトの研究に様々な影響を与えた。それはまた，当地に終生の棲家を得た「歌劇王」R. ヴァーグナーといったバイロイトに深く根付いたロマン主義の世界に，若きA.フンボルトが「奇しくも」身を投じていたことを意味した。

図1　A.v. Humboldt

さらに，当時のバイロイトでは「ゲーテを超えた」（モーリッツ）ドイツ・ロマン主義の文豪ジャン・パウル(J.パウル,1763-1825)が活躍していた。彼はゲーテやシラーに受け入れられず，A.フンボルトとの関連性についても注目されなかった。しかし，J.パウルとA.フンボルトの「足跡」や世界観，そして彼らの業績には「ゲーテ，シラー以上の」共通点が見出せ，J.パウルの描いた理想郷と，「バイロイト以降」に探検の旅に船出したA.フンボルトの目指した世界が様々に一致する。また，彼の『コスモス』の世界は，J.パウルに傾倒したG. マーラーが彼の著作『巨人』（1805）の名を冠した交響曲第一番などにみられるように大自然や宇宙と人間とのつながりにも及ぶものである。

このように本論では，地理学と，文学，芸術，歴史学の視点からバイロイトの自然や思想文化がA.フンボルトに与えた影響を考察し，「バイロイトのロマン主義」こそが，A.フンボルトを通じて近代地理学，地球学そして人文地理学に大きな影響を与えていたという視点を提唱したい。

Ⅱ　ドイツ魂の地 ―18世紀後半のバイロイト―

歴代の有能な辺境伯によって統治され，文化芸術にも著しい発展を遂げた領邦絶対主義期のバイロイトは，18 世紀半ばに宮廷がアンスバッハに移され，斜陽期に入っていた。この地に生まれた J.パウル（**図 2**）はバイロイト領邦の自然や，宮廷の黄金期を想起しながら，その博識と機知に富んだ多くの長編小説を著し，Ⅰで述べたような圧倒的な賛辞を持って受け入れられた。「机上の博物学者」であった彼は，百科事典や新聞，様々な言語の書籍を駆使しており，彼の知的関心は世界各地そして宇宙へと，時空を越えて縦横に往来していた。一方で A.フンボルトは「冒険（探検）の博物学者」とも称される。2 人は面識こそ持たなかったが，「バイロイトのロマン主義」の中で共通の視点を得ていた。

図 2　Jean Paul

当時，バイロイト近郊のフィヒテル高地や「フランケンのスイス」（**図 3**）と呼ばれる風光明媚な山岳地帯（オーバーフランケン地方）にティーク，ヴァッケンローダーそしてゲーテといったロマン主義作家らが訪れ，ここを「ドイツ魂の地」と称賛し，J.パウルの活躍とともに注目を集めた。また，バイロイト・ロココ式宮殿，ヨーロッパ屈指の歌劇場（バイロイト辺境伯歌劇場）やエレミタージュなどの離宮庭園，理想都市ザンクトゲオルゲン，人工洞窟，古代岩石劇場，総合大学やアカデミーといった辺境伯宮廷の「置きみやげ」がバイロイトの精神風土を伝えていた。

このような中，同盟関係にあったプロイセン王国は 1791 年アンスバッハ・バイロイト領を編入し，当地の資源調査に乗り出した。この調査に王国鉱山技師として派遣されたのが，当時，ドレスデン近郊のフライベルク鉱山アカデミーで研究していた A.フンボルトであった。

当地一帯の鉱物資源探査を命ぜられた彼は，活動の拠点としてバイロイトを選んだ。当地にはドイツ屈指のフリーメイソンのグランド・ロッジが存在し，メイソンの会員であった A.フンボルトはこの地によく馴染んだ。彼は「皆が親しげに話しかけ，バイロイトで私を知らない者はなかった。また，研究に打ち込めた」と記したが，後に知られた彼の実証的な研究やフィールドワークの手法は，このバイロイトの地で形成された。さらに彼は J.パウルの生地ヴンジーデルや，ギムナジウム時代を過ごしたホーフにも滞在しており，当時，大きな成功を収めていた J.パウルについて深く知り得るところにあり，彼の著作に触れていた可能性は極めて高いと言える。

図 3　Fränkische Schweiz (Oberfranken)

Ⅲ　「コスモス」＝ドイツ・ロマン主義の世界へ

A. フンボルトは，このバイロイトで人生の岐路に立った。王国技師の道を歩むか，これまでの研究や実務，そして自らの手法を基に探検の世界に旅立つかに悩んでいた。そこには彼の故郷である，軍事力と官僚主義のプロイセンにはない，バイロイトの自然や自由な思想文化があった。また，当時のフランス革命による自由主義，個人主義のうねりは，交通・国境の要衝の地として様々な思想文化を受け入れた伝統をもつバイロイトに滞在する彼に様々な感化を与えたことは想像に難くない。

このような中，王宮の庇護から離れて一文筆家として自立の道を選んだ J. パウルのように，A. フンボルトも自立の道を歩み始めた。この点に関しても官職のまま研究を続けたゲーテとは一線を画していた。

A. フンボルトは探検に乗り出したが，それは彼のバイロイト時代に描いていた『コスモス』の世界を求めたものであった。この航路についても「バイロイトのロマン主義」の影響下にあったといえ，J. パウルの関心と同じく西の“理想郷”へと向かっていた。日の沈む西方の世界は死後の世界とも言われ，中世には恐れられたが，大航海時代が訪れ，アメリカ大陸への移住が進むにつれ理想郷や楽園が存在すると主張されていた。晩年のゲーテがイスラム教や仏教といった東方の宗教や世界観，文学に深い関心を寄せたことに対し，A. フンボルトは J. パウルと同じく西へ向かい続けた。多種多様な生物を生み出し，そして自身も様々に変化・変動する大自然の中に，彼は宗教，国境を越えた大きな地球観や宇宙観を見出していたのである。

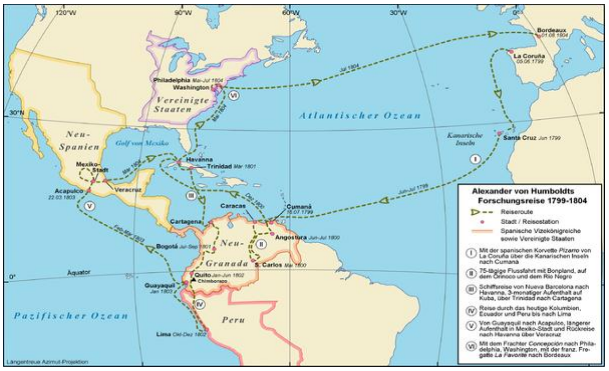

図 4　A.フンボルトの探検航路

Ⅳ　結語 －バイロイトのロマン主義と A. フンボルト－

このように，A. フンボルトはその多感な青春時代に，「バイロイトのロマン主義」の中で『コスモス』の完成に至る研究や探検のライフ・ワークを描いていた（**図4**）。これらは従来から主張されたゲーテやシラーそして彼らの拠点たるヴァイマルといった「ドイツ文化の中心」からの影響とは異なるものである。また，大海原の彼方に理想郷を求め，人間と自然，さらに地球と宇宙の関連性に及んだ視点は，「ゲーテ以上に」J. パウルの一連の長編小説に顕著になっている。A. フンボルトと J. パウルの著作をみても，強く影響しあっていたことは明らかであり，自然世界を中心に自由な発想で機知に富む視点は両者に共通のものである。一方，完結的で人間を中心に置き，デモーニッシュな世界観にまで深く及んだゲーテや，歴史的視点を重視したシラーなどとは方向性を異にしていると言えよう。

（資料，助言及び写真提供：Historischer Verein für Oberfranken e. V.，Alexander von Humboldt-Stiftung，Jean-Paul-Gesellschaft，　以上在ドイツ）